

授業科目名	在宅看護学実習Ⅲ <i>Practicum in Home Care Nursing III</i>		担当教員		
開講年次	2年通年	セメスター	3・4	時間数(単位数)	135(3)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	この実習では、在宅看護学演習Ⅱで学んだ内容を活かし、終末期ケアに関する看護を必要とする療養者を受け持ち、高度な看護実践を行う。また、専門看護師としての6つの能力のうち、「卓越した実践能力」と「連携調整」「倫理的問題の調整」を中心に「教育」「相談」「研究」を高め、在宅看護スペシャリストとしての役割を学ぶ実習である。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>療養上複雑で多様な課題を持ち終末期ケアが必要な療養者と家族に対し、専門知識・理論に基づいた包括的なアセスメントを行い、経過時期別に看護問題を抽出し適切なケアが実践できる(卓越した実践)。</li> <li>在宅療養支援診療所からの訪問診療に参加し、加えて、終末期の在宅ケアチームの専門職種間や関係機関との連絡調整を実施し、多職種連携によるチームアプローチが実践できる(連携調整)。</li> <li>療養上複雑で多様な課題を持ち倫理的問題に直面している療養者および家族が、自らの価値観と一致した選択ができるように、意思決定支援が実施できる(倫理的問題の調整)。</li> <li>終末期ケアに関連した課題や問題について、ケアスタッフへの教育方法や相談活動方法を考えることができる(教育・相談)。</li> <li>看護実践の中から在宅看護の専門知識・技術や看護実践の向上のために必要な研究課題を考えることができる(研究)。</li> </ol>				
授業計画	<p><b>【方法】</b>  実習では、療養上複雑で多様な課題を持ち終末期ケアに関する看護を必要とする療養者と家族を2事例以上担当し、包括的アセスメント、ケアの実践、多職種との連携調整、倫理的調整などを実践する。可能な限り訪問看護開始前の在宅療養移行期から関わり、安定期、臨死期および死別後の家族へのグリーフケアを含めた経過時期別ケアを実践する。さらに、デスカンファレンスの企画・運営も行う。  訪問看護ステーションによる実習に加え、在宅療養支援診療所において1～2日実習し、訪問診療における在宅医やクリニックの看護師の役割を学ぶ機会とする。  事例検討や勉強会など看護師等への教育活動の企画から実施までの過程に参加する。また、看護師や多職種からの相談業務を実習指導者の指導を受けながら実践する。  本実習では、専門看護師としての6つの能力のうち、「卓越した実践能力」と「連携調整」「倫理的問題の調整」を中心に「教育」「相談」「研究」を高めるが、各能力に関する内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>卓越した実践：療養上複雑で多様な課題を持ち終末期ケアが必要な療養者とその家族に対して、実際に関連する専門知識・理論を活用した包括的なアセスメントを行い、看護計画を立案、実施、評価を行う。</li> <li>連携調整：療養上複雑で多様な課題を持ち終末期ケアが必要な療養者とその家族の療養生活が継続できるように実施されているケアカンファレンスやその他の活動に参加し、多職種・多機関との連携調整について考察する。</li> <li>倫理的問題の調整：療養上複雑で多様な課題を持ち終末期ケアが必要な療養者・家族の倫理的問題に着目して看護実践を行う。また、実習期間中に「倫理的問題の調整」が必要な事例があれば、実際の支援場面に同席したり、関係者にインタビューしたりすることで支援内容や方法を学ぶ。</li> <li>教育：実習指導者が行う訪問看護ステーションにおける看護の質の向上のための教育場面に同席し、教育方法や技術についてディスカッションする。</li> <li>相談：実習指導者が訪問看護スタッフに行う実際の相談場面に同席し、相談内容やコンサルテーション方法についてディスカッションする。さらに、受け持ち事例でのデスカンファレンスを企画し実施する。</li> <li>研究：専門的看護実践のため看護研究の位置づけを考え、在宅看護の質の向上に貢献できる研究課題を探究する。</li> </ol>				

授業計画	<p>【実習場所】 福岡赤十字訪問看護ステーション 宗像医師会訪問看護ステーション 在宅療養支援診療所（コールメディカルクリニック福岡，むらおかホームクリニック）</p> <p>【実習期間】 実習期間は、2年次を予定し、135時間とする。 実習時間は実習施設の就業時間に準ずる。</p>
学習方法	<p>目標に基づき、実習計画を立案する。 1週毎に学習をリフレクションし、自己課題を明確にしながら実習をすすめる。</p>
オフィスアワー	
テキスト	特に指定はしない
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本在宅ケア学会編：エンドオブライフと在宅ケア 在宅ケア学6. 東京，ワールドプランニング，2015.</li> <li>・ 長江弘子：看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア. 東京，日本看護協会出版会，2014.</li> <li>・ 日本訪問看護振興財団（監修），角田直枝（編集）：訪問看護のための事例と解説から学ぶ在宅終末期ケア. 中央法規，2008.</li> <li>・ 角田直枝：癒しのエンゼルケア—家族と創る幸せな看取りと死後のケア. 東京，中央法規，2010.</li> <li>・ 角田直枝：最新訪問看護研修テキスト ステップ2 緩和ケア. 東京，日本看護協会出版会，2005.</li> <li>・ 藤腹明子：看取りの心得と作法 17カ条（初版）.，青海社，東京，2004.</li> <li>・ 粕田晴之監修：こうすれぱうまくいく在宅緩和ケアハンドブック改訂2版. 中外医学社，2012.</li> <li>・ 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版. 東京，金原出版，2014.</li> <li>・ 国立がん研究センター中央病院薬剤部：オピオイドによるがん疼痛緩和 改訂版. 東京，エルゼビアジャパン，2012.</li> <li>・ 角田直枝，瀧本千春：がん疼痛ケアガイド. 東京，中山書店，2012.</li> <li>・ 篠田道子：多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル. 東京，医学書院，2011.</li> </ul>
評価方法	実習目標の達成度（60%）、実習記録およびレポート（40%）